

## 令和7年度 第1回逢妻地域会議 会議録

■日時 令和7年5月21日（水） 午後6時30分～8時

■場所 逢妻交流館 1階 多目的ホール

■出席者

＜委員＞	都築 幸雄（会長）	岡部 千治（副会長）	加納 勝彦
	岡田 一	竹原田 力	杉浦 正司
	松崎 康則	天野 正男	松下 正治
	西 澄弘	岩内 輝義	柿本 敏光
	鈴木 仁	原田 裕美	千葉 洋
	原田 朋美		
＜欠席者＞	今村 典夫		
＜地区区長会＞	自治区長 10名（うち3名は地域会議委員兼務）		
＜事務局＞	杉浦 智文（挙母事務所長）	塚田 征弘（地域交流課 副課長）	
	前田 浩貴（地域交流課 担当長）	深見 洸成（地域交流課 書記）	

### ■次第

- 1 会長あいさつ
- 2 令和7年度 逢妻地域会議委員名簿及び事務局紹介
- 3 地区区長会との意見交換
  - （1）地域会議の概要と意見交換会の進め方について
  - （2）地域会議での検討内容
  - （3）グループワーク
  - （4）検討内容の共有
- 4 その他
  - （1）令和7年度地域会議開催スケジュールについて（案）
  - （2）地域会議委員の慶弔について
  - （3）令和7年度わくわく事業実施団体について

### ■議事（要約）

#### 3 地区区長会との意見交換

地域会議での検討内容について、地区区長会の意見を聞き、提言内容の参考とするため、自治区長を交え、5グループに分かれて意見交換を実施した。

各グループでまとめた内容について発表を行い、全体へ共有を行った。

各グループでまとめた意見は次のとおり。

#### ＜Aグループ＞

- ・要支援者の人数把握が必要。リストアップしてExcel管理をする。
- ・備蓄品の整備を市にお願いし、公民館に手配し活用する。
- ・自治区役員と市で高齢者宅や要支援者宅を訪問し、家具固定や備蓄を呼びかける。

- ・ イベント等で体験型の防災訓練を取り入れる。(火起こし等)
- ・ 3年に1回、自衛隊と共同で実践型の防災訓練を行う。

#### <Bグループ>

- ・ 自治区回覧で備蓄、家具固定を呼びかけるチラシを配布する。
- ・ 備蓄、家具固定についてのチェックリストを区民に配布し、環境美化などの大勢が集まる行事の際に確認を行う(年2回実施し、実施率を区で集計する)。
- ・ 防災意識が低い方の防災訓練等への参加を促す方法として、備蓄品の配布等ではなく、危機感を煽る・危険を訴えかけるような周知が必要。
- ・ 区民会館の耐震化を進める。
- ・ マンパワーと子どもへの呼びかけがメインの現状の防災訓練は根本的な意識が低い。

#### <Cグループ>

- ・ 家具固定は過去にボランティアがあったが、若い参加者がなく継続できなくなった経緯がある。地域の若い人に家具固定への協力を依頼する。
- ・ 災害発生時の初動対応を各家庭でできるか試してもらう。
- ・ 地域特性や危険箇所ハザードマップについての周知。
- ・ 防災訓練は他のイベントと同時に行うのではなく、防災を前面に出して単独で実施する。
- ・ スマホ電源の災害時の確保が必要(避難所にもなる区民間など)
- ・ P H V車の所有者に協力要請を依頼する。
- ・ 多種多様な防災訓練を行わない。(多くのことを行うと目的がぼやけてしまう)

#### <Dグループ>

- ・ 被災者から体験談を聞く。
- ・ 炊き出しや防災トイレの使用法訓練、非常食や防災グッズの配布を行う。
- ・ 女川付近に避難所があるため、危険水位まで水が増えると避難できない。
- ・ 市民による事業(わくわく事業)で川の整備を行う。
- ・ イベント等の流れで防災訓練も実施する。体験型、ゲーム形式で参加したくなるような訓練とする。

#### <Eグループ>

- ・ 防災訓練のマンネリ化が課題。たくさんの方が参加してもらえるように関心を持ってもらう工夫が必要。
- ・ 地区として防災の日を決め、防災について考える日とする。
- ・ 訓練は行っているが、啓もう活動をおこなっていない地域に行うように促す。
- ・ 地域イベントと一緒に防災イベントを行う。自治区、企業、学校と連携して訓練を行う。
- ・ 防災に関するチェックシートを作成、各家庭で記入し、家庭内の課題の把握や、当初と現在でどのように変わったかをセルフチェックできるようにする。
- ・ チェックシートを自治区で回収し、自治区としての課題を認識する。
- ・ チェックシートは簡素にして、逢妻地区共通で配布をする。

●令和7年度 第2回逢妻地域会議

日時：令和7年6月18日(水)午後6時30分～

場所：逢妻交流館多目的ホール